

03・【クンニからの立ちバックしっぽ生ハメ】放課後になってもやめてもらえなくてクンニでイカされまくった後、立ちバックしっぽ挿入で犯される

〈ヘシチュエーション〉

本編トラック02から数時間後。

七月四日（木）十六時過ぎ。

主人公と詩音が通う「音海（おとうみ）学園」の屋上。

主人公は屋上のベンチに座らされ、詩音にクンニされている

SE1 夕方の屋上の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【0—7秒ほど流して『詩音』のセリフ】

【その後、音量が小さくなる】

【ごく小さな音量で流す】

●【1】 下50センチ

■屋上にあるベンチに跪き、主人公の股間を口と舌で愛撫している。

すでに理性をほとんど失っており、欲望の赴くままに行為を続けている

「【※しばらく※ 夢中で、吐息交じりに舐める。

音は、最初はあまり激しくない。だが水っぽい音で、淡々と、丹念に、無心で貪り、味わっているという感じの舐め方。後半に向かうにつれ激しさを増していく。

呼吸はゆっくり気味に荒く。

あまり苦しそうではないが興奮していて、聞いているだけで聞き手をドキドキさせるよ
うなイメージで」

んっふ……。

ちゅぶっ ♡

んっく……ちゅるっ ♡

ちゅるるるっ……ちゅるっ ♡

れるれる、れるれる、れるれる。じゅるうっ…… ♡

ふーっ、はーっ ♡ ふーっ、はーっ ♡

んっく……じゅるるるっ ♡

んんうっふ……んっ…… ♡

ちゅるっ ♡

〈主人公〉

「ああああっ……!!♡」

●【1】 下50センチ

■主人公の絶頂が近づいている事を理解して、ペースを上げていく

「【※しばらく※ 夢中で、吐息交じりに舐める。

先程よりも激しく、荒く、主人公の『絶頂ポイント』が近づいているというのを伝わりやすくする」

ふーっ、はーっ♡ ふーっ、はーっ♡

じゅるるるるるるっ……じゅるうっ♡

じゅぶっ♡ じゅぶぶぶぶぶ、じゅぶうっ♡

■主人公の絶頂が近づく

れーろ、れーろ、れーろ、れーろ。れれれれっ……♡

ちゅっぶ、ちゅっぶ、ちゅっぶ。じゅるるるるるるうっ♡

【※ここで主人公が絶頂する※

※しっかり舐めたまま※ 少し苦しそうに喘ぐ。

少し驚いたような、こもった喘ぎをする事で、絶頂ポイントをわかりやすく伝えて下さ

い】

んっ……！
んんんんうっ……んーっ……
んんんうっ……んっ……

〈主人公〉

「詩音ちゃ……！」

●【1】 下50センチ

■主人公の股間から口を離して、目の前で、ぼーっとした状態で苦しそうに息をする。呼吸は苦しいが、心身ともに充実していて満たされている。幸せ

【※9回※ 呼吸する。

苦しそうではあるが満足気で、幸せそうな呼吸。

たっぷり主人公の味を堪能したので】

はーっ はーっ はーっ

はーっ はーっ はーっ

はーっ はーっ はーっ……

【ちよっと申し訳なさそうにしつつも、あまり悪びれていない感じで。

完全にもう衝動のコントロールができなくなってきたので。

『時間感覚トんでた』Ⅱ『時間を忘れて夢中で舐めてしまっていた』
あく……。

ごめん♡

いいんちよのここ、美味し過ぎて時間感覚トんでた……♡」

SE 2 部活の掛け声

【最初から最後まで流す】

【5回繰り返して流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【ものすごく遠く、地上からかすかに聞こえてくる】

【だんだん聞こえなくなる】

●【1】 下50センチ

■主人公のおかげですっかり体調は良くなり、感覚は鋭利になった。

そのため、主人公の事であれば、なんでも感じとれるような万能感に満たされている。

主人公が『これまでの数時間で何度も絶頂を繰り返し、その度にますます自分を受け入れてくれるようになり、いたわってくれている』というのを肌で感じている。

詩音はそれを主人公の優しさだと解釈しているが、実際は違う。

主人公は詩音の事を『健気で可愛い』と思っている。

過去の些細な出来事からずっと自分を一途に慕い、一番困った時に『助けて欲しい人』として選んでくれたからだ。

確かに二人はこのところ、以前ほど親しい関係ではなくなっていた。

だが、それはクラスが違うからというのが主な理由だし、校内ですれ違えばいつも……そういえばどこか緊張気味に……手を振ったり声をかけてくれた詩音を、主人公は『義理堅くて可愛い』『機会があれば、また一緒に遊んだり、連絡を取り合ったりしたい』と思っていたのである。

もちろん、突然このような事になって、戸惑いはある。

だが、主人公は電話がかかってきて詩音の窮状を知った時『そうしてもいいのなら、自分が助けたい』『少なくとも、断って他の人に声をかけさせたり、一人で苦しませたりするような事はしたくない』と思った。

そう思った事について、主人公はまだ心の整理ができていない。

だが『呼ばれてすぐに向かった』という事が、自分なりの答えではないかと考え始めている

【うっとりとしため息をつく】

はああ……あ
♥

【優しく、熱っぽく。

主人公の事が好きで好きでたまらないという感じで
好きだよ……好き。

めっ……ちや好き……♡

【※しばらく※ 吐息交じりにキスして、舐める。

キス多めで、ちゅぱちゅぱ音を立ててする。

先程よりも優しく、穏やかに、丁寧に舐める。

興奮気味ではあるが、比較的落ち着いた呼吸をする】

ちゅっ♡

はあ、はあ、はあ。

ちゅっ♡ ちゅっ♡

ちゅっ♡ ちゅくうっ♡

れるるるるっ……じゆるううっ♡

【うっとり嬉しそうに唇を離す】

ふはっ……♡

【独り言のように、うっとり。

『とにかく好きで、信じられない位美味しい食べ物』について話しているような感じで
ほんと。ほんと美味し過ぎてやばい……♡

好きな人の味って、こないんだ……♡

【※しばらく※ 吐息交じりにキスして、舐める。

キス多めで、ちゅぱちゅぱ音を立ててする。

先程よりも優しく、穏やかに、丁寧に舐める。

興奮気味ではあるが、比較的落ち着いた呼吸をする】

はあ、はあ、はあ。

んっ……べろべろ、べろべろ、べろべろ、れるっ♡

れるるるる……ちゅっ♡ ちゅっ♡

くちゅちゅちゅ……れるうっ♡

●※舐めながら※ 話す

【うつとりと嬉しそうに。

『こうやって、ずっと溢れてくるしさあ。気持ちよさそうにびくびくしてるの、ほんと可愛いから。ずっと舐めちやってたね』と言っている。

※正確にセリフの通りでなくてOKです※】

ひょうひやって、ずっひよあひゅれへふるひさあ……♡

気持ちひよひやそうにびくびくひてゆの、ふおんと可愛いから。

ずっひよ舐へひやってたね……じゅるっ♡

【『ひよは』 』ほら』】

ひよは、いいんちよも飲んで？♥
すっごい美味しいから」

SEE3 詩音が近づく音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【下から正面眼前に近づいてくる】

● ※移動※

● 【1】 一度上50センチまで上がってから、0センチで止まる

(以後、上下の指定がない場合はこのまま0センチ⇨通常の高さで固定)

● ※一度立ち上がってから、かがんでキスを始める※

■ 立ち上がって、今後は正面からかがむ形で話し、主人公にキスをする。

自分の口の中に残った主人公の愛液を、口移しで飲ませようとする

「【※しばらく※ キスする。

舌をしつかり絡める『主人公の愛液と言う美味しいものを、ぜひ主人公にも食べさせた
い』と言わんばかりのキス】

んれえ……ちゅ♥ ちゅるるる♥

ちゅ♡♡ ちゅ♡♡ れるるっ♡
ちゅっ♡♡

【うっとり嬉しそうに同意を求める。

主人公と自分では味覚が違うという事も忘れる位、完全に『酔っている』ので
ね?♡♡」

SE 4 部活の掛け声 2

【最初から最後まで流す】

【ものすごく遠く、地上からかすかに聞こえてくる】

〈主人公〉

「はあ、はあ、はあ、はあっ……♡」

●【1】

【「ちよっと申し訳なさそうにしつつも、あまり悪びれていない感じで】

あゝ……喋るのもちよっとしんどいか……ごめんね♡

【話しながら、脈絡なくキスする】

んっ……ちゅ♡♡」

SE5 部活の掛け声3

【最初から最後まで流す】

【ものすごく遠く、地上からかすかに聞こえてくる】

SE6 詩音が主人公を抱きしめる音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【ぐっと近づいてくる】

● ※移動※

● 【7】

● ※移動しながら話して※

■ 主人公の右耳側に頭を置いて、耳元に話しかける

【「優しく、やさやくように」

よしよし……一杯いったね……♡

一杯気持ち良かったね……♡

【『数える』 Ⅱ 『主人公が絶頂した回数を数える』】

私も途中から数えるの忘れちゃってたもん。

絶対……イってくれた回数数えるところと書いたのに……♡

【※1回※ 耳に軽くキスする】

ちゅ♡

【※※までささやく※

嬉しそうに満足げに】

大好きだよ♡

【※1回※ 耳に軽くキスする】

ちゅっ♡

【優しく、それが当たり前のように。

あたかも『まだまだセックスする』のが当然のように切り出す】

……どうする？♡ 次、また指でしてあげようか。

それとも……】※

〈主人公〉

「あ、あの……」

●※移動※

●【1】

■主人公の正面に戻って、きよとんと不思議そうに見つめながら。
主人公が何を気にしているのかわからない

【優しく続きを促す】

ん？」

SE7 部活の掛け声4

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフの邪魔にならない程度に、少し始まるタイミングをずらして流す】

【8回繰り返し返して流す】

【ものすごく遠く、地上からかすかに聞こえてくる】

【だんだん聞こえなくなる】

〈主人公〉

「今って、あの、何時……？」

し、下。部活やってない……？　なのに、なんで……っ♡
「

●【1】

■主人公の疑問は正当なものであると気づく。

すっかり忘れていたが、そういえば、もう放課後なのである。

なので、夢中になるとすぐに他の事に意識がいなくなる自分の性質をきちんと謝罪しつつ、できるだけ優しく、丁寧に回答していく

「『確かにその件があった』という感じで。」

甘い雰囲気でありつつ、今度は申し訳なさも感じている様子で

あゝ……♡

【申し訳なさそうに優しく。

今度は気遣うように謝る】

ごめん、また説明足りてなかったね。

私、夢中になると他の事すぐ忘れるんだよなあ。気をつけるね。

【とても優しく。『その気持ちはわかるよ』という感じで】

……うん。そうだよね。そこ気になるよね。

でも、心配しなくて大丈夫。

【※まで、特に丁寧に。

『主人公にきちんと理解してもらって、不安をなくそう』と考えている感じで。

『説明セリフ』なので。

ただ、自分の推測で話しているため、時折自信がなさそうだったり、疑問形になったり

する部分が混じる」

さつきあたし『淫魔の力、ちゃんと使えそう』って言ったでしょ？

最初に出せた力で、入り口に……認識阻害？　って言うのかな。

本当とは違って見える風になる魔法、かけといたんだ。

だからどんだけ経っても、ここには誰も来なかったの。

他の人からは、入り口に鍵がかかってて。

『使用禁止』って紙が貼ってあるみたいに見えるはずだよ。

【ちよつと自信がない。

実際にそうなっているか確認したわけではないので】

まあ、人によって見え方は違う気もするけど……。

【自信のない部分について、ざっくりとした表現で片づける】

とにかく『何（なん）かよくわかんないけど入れない状態』って、皆（みんな）思っているはず。※

【ナチュラルにまた、セクシーな雰囲気の声に移行していく】

今の私はまだそれと、匂いで何（なん）となくいいんちよの事がわかるようになった程度の手しかないけど……。

逆に言えば、もう、その位はできるようになってるから」

● ※移動※

● 【7】

「【※※※までささやく※

ひそひそと嬉しそうに。内緒話をするような感じで

これからもっといいんちよにエネルギーもらえたら。

もっとと身体が変わって行って。

もっと色々できるようになると思う……♡※

【※1回※ 耳に軽くキスする】

ちゅ♡「

〈主人公〉

「……♡」

● ※移動※

● 【9】

● ※びくつと身を引きながら※ 話す

■ 自分の身体の異変に気付く。

しばらく落ち着いていた尾骨の違和感が、今度は痛いわけではないが、疼く

「小さく、だが明らかにぴくつと震えて」

んっ……っ?♥

〈主人公〉

「!？」

SE 8 詩音がよろける音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフの邪魔にならない程度に、少し始まるタイミングをずらして流す】

● ※移動※

● 【10】

● ※9から10へ、よろけるように※ 話す

■ 痛みはないが、とても不安。だが、主人公を心配させたくはない。

だが、例によって説明不足なのを忘れる。『尾骨に違和感があつて、どうやら尻尾が生えてきそう』という事をうまく伝えられないまま話す

「【声が震えるのをこらえて、平気そうにする。】

『なんだか身体に変化が起きているみたいだけれど、この位は想定内ですよ』『全然平気

ですよ』と振る舞おうとする。

『来る』 Ⅱ 『サキユバスとしての肉体的な変化が来る』

あっ……ほら……っ ♡

そろそろ……っ。

来る、みたい」

〈主人公〉

「えっ……？」

SE9 詩音がよるける音2

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

● ※移動※

● 【10】 下100センチ

● ※10の位置からよるけて、へたつと膝をついてしまったようなイメージで※ 話す

● ※完全に下を向いてうつむいた状態で※ 話す

「【※7回※ とてもゆっくりと、苦しそうに呼吸する。」

一回一回短く途切れるようなイメージで」

はあ、はあ、はあ。

はーっ、はーっ。はーっ、はーっ……♡

■主人公に苦しんでいるのを知られたくない。

『具合が悪い』『貧血っぽい感じ』と言った、人間でも想像しやすい体調不良は素直に打ち明けられても『身体に異変が起きている』という『人外っぽい痛み』を打ち明けて、怖がられたり、一線を引かれたりするものが怖い。

なので、必死に耐えようとする

「『あからさまに様子がおかしい』のに、尚平気そうにする。

『噂をすれば』Ⅱ『もっと身体が変わってくる』という話を丁度していた通り』

噂をすれば……っ、っ、っ、やっだ、ね。

【苦しそうに。

必死でこらえているが『あからさまに痛がっている』という感じで

んっ……っ！♡

〈主人公〉

「詩音ちゃん！」

SE10 主人公が駆け寄る足音

【最初から最後まで流す】

▲ボイス加工あり

一気に近づく（聞き手側から近づく）

●※移動※

●【1】

●※『主人公が上から下へ向かって一気に近づいてきた感じ』は編集で表現します※

●※完全に下を向いてうつむいた状態で※ 話す

■心配した主人公が、一気に駆け寄ってくる。

すぐには顔をあげられず、うつむいたまま呼吸する

「【※8回※】とてもゆっくりと、苦しそうに呼吸する。

一回一回短く途切れるようなイメージで」

ふーっ、ふーっ。ふーっ、ふーっ……♡

はーっ、はーっ。

はーっ、はあぁっ……♡」

SE11 詩音の身体から、サキユバスの尻尾が生えてくる音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

●【1】

「苦しみが和らぎ、ホツとしたような声で」

ああ……『出てきた』……♡」

〈主人公〉

「……！」

SE 1 2 詩音がしっぽを持つ音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

●【1】

■お尻に手をやって尻尾を手前に持ってくる。

それから、生えたての尻尾を見つめながら、感想を述べる。

同時に、尻尾が生えた事で何だかすっきりしたというか、少し気持ちが落ち着く。

先程までよりも理性をもって会話できるようになる

「思わず笑ってしまふ。」

『自分を苦しめていたのはこれだったのか』と目視したら、その尻尾は、思ったより小ささやかな姿だったので。

だが、それを言うのは悔しいので『長い』と表現する」

……はは。思ったより長い」

● ※移動※

● 【9】 上100センチ

● ※床にへたり込んだ状態から立ち上がったというイメージで上に移動してから※

● ※かつ、尻尾を見せるために少し距離を取ってから※ 話す

■ だがすぐに、自分の尻尾が『異性と交わって成長したサキュバス』のそれとは明らかに違う形状をしていると気づく。

交わった相手の体液がサキュバスの成長と密接に関係するという事は知っていたが、まさかここまでとは……と思う。

つまり、自分の身体は『主人公用』『主人公を喜ばせるために成長している』のである。そう思うと、先程まで自分を苦しめていたこの尻尾も、途端に愛おしいもののように感じられてくる。

広義の意味では『自分と主人公の愛の証』ともいえるので

「なぜか、何だか嬉しそうに、少し照れたように。

尻尾が生えた経緯やその形状を思うと、嬉しくなってきたしまったので」

ほら見て？♥ いいんちよ。

いいんちよが一杯、体液？ くれたから。尻尾出てきちやっただよ……♥」

〈主人公〉

「詩音ちゃん……！ 大丈夫？！ それ、痛くないの……?!」

SE13 主人公が立ち上がる音

【最初から最後まで流す】

● ※移動※

● 【9】 0センチ

（以後、上下の指定がない場合はこのまま0センチ＝通常の高さで固定）

■ 主人公が立ち上がったので、改めての目の前まで尻尾を持ってきて話している。

『痛くないのか』という質問について、見栄を張って答えず『大丈夫』とごまかす

「優しく。」

つい喜んでしまっている自分に対して、主人公があまりにも心配そうな顔をしているので」

ん？ ♡

はは。大丈夫だよ。

■しかし、気が緩んで、うっかり本音を漏らしてしまう。

あまりに主人公が心配してくれるので

「ぽろっと。つい油断して、本音を漏らしてしまう。

『出せないままのがよっぽどキツかった』 〓 『このままなかなか生えてこない状態が続いていたら、激痛が続いていただろう』

てか、出せないままのがよっぽどキツかったから助かった…… ♡

● ※移動※

● 「1」 上15センチ

● ※耳の位置より少し上でキスしている状態なのを意識して※ 話す

■ 主人公の髪の毛にキスする

「【※1回※ 軽く髪の毛にキスする】

ちゅ ♡

● ※移動※

● 【9】

（以後、上下の指定がない場合はこのまま0センチ＝通常の高さで固定）

■ 主人公と目を合わせられる、同じ高さに戻る

「【とても優しく。余裕ぶって】

ありがとね」

〈主人公〉

「ほんと？ほんとに辛くない？」

● 【9】

■ 気遣ってくれる主人公が愛おしくて『過去形であれば、本音を話してもいいのかな』という気持ちになる。先程までよりも、主人公に心を開く

「【優しく。主人公を安心させたいし、今は痛くないのは事実なので】
ほんと。

● ※少し間をあげてから※ 話す

「さりげなさを装いつつも『ちよつと情けない話なんだけど……』という感じで切り出す」
……実はさあ、これ、さっきまでマジ痛かったんだあ」

〈主人公〉

「……そうだったの？」

「【優しく。主人公を安心させたいし、今は痛くないのは事実なので】
うん」

〈主人公〉

「だから、あんなに話すのも辛そうにしてたんだね？」

●【9】

「【ちよつと照れたような、申し訳なさそうな感じで。

また、先程よりも『しんどかった事』を隠さなくなった感じで。

『中側』Ⅱ『身体の内側』

へへ。そういう事。

かっこつけて『他は大丈夫』とか言ってたけど……ほんとに話すのもしんどかった。

朝から、ずっと中側（なかがわ）から刺してくるような、突き破ってくるみたいなきが
があつて。

【『あれはほんとに辛かった……』という感じで】

痛くてだるくて苦しくて……。

あのままだったら倒れてたかも。

【優しく。主人公を安心させたいし、このことについて強調したいので】

……でも、いいんちよとキスしたら一気に楽になって、痛かった事も忘れられたんだよ」

〈主人公〉

「そう……なの？」

●【9】

■ 本当はとても怖い。『痛みも、今回はなかったにしろ、主人公が傍にいなかったり、主人公の体液を長期間摂取できないような状況だったりしたら、もしかすると生えてくる時物凄く痛いのではないか。今度こそ気絶するのではないか』と不安になる。

本当はそれを打ち明けて、主人公に頼りたい。だが、それはよくないのではないかと思う。

そんな事を話して『頼られすぎて重い』『付き合ってあげるのが億劫になった』と鬱陶しがられたら、詩音は生きていけないので

「優しく。恐怖をこらえて、何でもない事かのように話す。」

主人公を安心させたいし、このことについて強調したいので」
うん。

これから角とか羽も生えてくるだろうけど……成長痛のヤバイ版みたいなやつだと思えば、まあ、ね。

生えた後も、普段は認識障害で隠しとくし。

【ちよつと恥ずかしそうに】

私の血の事はみんな知ってるけど、目立ちすぎて恥ずかしいからさ。

【とても優しく、いたわるように。主人公を安心させたいので】

……だからそんな顔しないで？

私は大丈夫。

ね？」

〈主人公〉

「でも……」

●【9】

■胸がきゅんとなる。思わず甘えなくなる。

主人公が、いや周りが詩音をどういう人間だと思っっているかは知らないが、詩音は本質

的には、主人公を信奉する陰キャオタクなのだ。

甘えられるものなら甘えたいし、この状況を最大限に利用して特別な関係……いや、継続的な関係を結べなくても、一生覚えていられるような思いが欲しいのだ。

そんな下心を自分なりに必死に抑えて接しているというのに、主人公はどこまでも優しい。せっかく頑張って普通の会話ができる状態まで心を戻したのに、また我慢ができなくなりそうだ、と思う

「困ったように、切なそうに、でも嬉しそうに。

主人公の事が好きで好きでたまらないという感じで」

……もう、ほんと優しんだから」

● ※移動※

● [1]

● ※衝動的に近づいてキスした※ という感じで

「[※1回※ 軽くキスする]

ちゅ♡

「困ったように、ちょっと甘く、切なそうに。

言外に『主人公も悪いんだからね』と言っているような感じで」

ちゅーするよ？

『あはは、困ったよね。また気持ちが抑えられなかった。ごめんね』という感じで
もうしたけどさ」

〈主人公〉

「いいよ……？　しても」

●【1】

「虚をつかれて。主人公の言葉が、あまりにも意外だったので」

……え？

■主人公の方から顔を近づけてくる。

目の前で起きている事が理解できず、反応できない

【小さな声で。

『驚いて反応もできない』という感じで】

あ……。

■主人公の方からキスして来る。

想像もしていなかった事が起こって、驚いて、完全に受け身になる

【※1回※ 軽くキスする】

ちゅ♡

【※6回※ キスする。

切なげな、受け身のキス】

んっ………♥ ……ちゅ♥ ……んう………♥

ちゅ♥ ちゅっ♥

ちゅっ………♥

【唇を離して、ちよつと泣きそうになったのを、誤魔化すように笑う。

まさか主人公の方からキスしてくれるとは思っていなかったの】

はは。今度はされる番になっちゃった。

■強引に話題を変える。

キスで再び酔っているような感覚に陥ったのに乗じて、キスされて嬉しすぎる事を誤魔化そうとする。詩音は主人公に『重い』『面倒くさそう』と思われたくない

【優しく、ちよつと困ったようにかうかう】

でもさいいんちよ。あたしの心配ばっかしてていいの?」

●※移動※

●【3】

■主人公の左耳にささやく。また、こうする事で自分の顔を隠す

「【※※※までささやく※

ひそひそと優しく、ナチュラルにセクシーな雰囲気に移行する感じで。
わざと今の状況を言葉にする事で主人公の興奮を煽り、この場をごまかそうとする」
こんな長い時間好き放題されて。放課後になっても、全然帰してもらえなくて。
もっと色々されちゃうかもしれないのに。いいの……？」※

〈主人公〉

「いいよ……♡ 今は、詩音ちゃんの事が一番大事だから。
詩音ちゃんが楽になれる事、しよう？♡」

● ※移動※

● 「1」

■ 主人公が正面に向き直って、真剣に伝えてくる。

トラック02の時のように強引に自分のペースに持ち込んでごまかそうとしたのに、それを許されず、戸惑う

「戸惑うように、言葉を詰まらせる。

主人公の言葉が嬉しくて、同時に申し訳なくて」

「……」

〈主人公〉

「それに……詩音ちゃんはわかるんでしょ？」

わたしも、したいって思ってる事。

わたしも詩音ちゃんとするのが嬉しいって、気づいてるんでしょ？

だから、もっとしていいんだよ。

もっとしたら……もっと楽になれるんだよね……？

しよう……？

●【1】

■嬉しくて嬉しくて、どうにかなりそう。

本当は断るべきだと思っている。なぜなら『苦痛を抑えて成長を安定させるだけなら、体液をもらうだけで済むかもしれない』という可能性が出てきたので。

だから詩音は、これについてきちんと説明して『主人公はもっと深い行為をする覚悟でいてくれているようだが、その必要はないかもしれない』と言うべきなのだ。それが一番誠実な対応だと思う。

だが、これはあくまで推測の域を出ない。『もう大丈夫だ』と言って主人公と別れた途端、詩音は再びあの苦痛に苛まれる……という可能性も残っている。

そう思うと、詩音は離れるのが怖くてたまらない。結果的に主人公をだますような形に

なっても、詩音は主人公にそばにいて欲しい。もう性的な事はできなくてもかまわないから、あのお泊り会の時のように隣にいて欲しい。

そんな風に詩音は自分の事ばかり考えているのに、主人公はずっと詩音の事ばかり考えて、今も自分の言葉を待っている。

詩音はこの優しさに負けそうだ。甘えたいという衝動に抗えない

「『ものすごく困っているけど、それ以上に嬉しいのがさらに困る』という感じで」
あく……。

●※少し間をあげてから※ 話す

「『本当は駄目なのに、そんな事を言われたら嬉しくて揺らいでしまう』という感じで」
もお……♡

●※少し間をあげてから※ 話す

「困ったように、でも嬉しそうにため息をつく。

『人の気も知らないで……』という感じで」

はあぁっ……♡

●※少し間をあげてから※ 話す

「困惑と嬉しさが入り混じって、少し泣きそうになって」

何それ……♡

てか優しすぎるよ……♡

あのさあ……そんな事言われたら、あたし悪いやつになっちゃうよ？
もっと甘えて、もっといいんちよの事欲しくなっちゃうよ？ ♡

〈主人公〉

「いいよ？ だって詩音ちゃん、絶対合意のえっちしかしないんでしょ？
私のしたい事、したくない事、ちゃんとわかって欲しくなってくれるんだよね。
なら、いいよ？ いくらでも、好きなだけしていいんだよ？」

●【1】

「困ったように、でも嬉しそうに言葉を詰まらせる。

『人の気も知らないで……』という感じで」

っ……っ ♡

■再び、主人公の方からキスして来る。

今度はされる事をわかっていて、受け入れる。事実上の『根負け』

【※1回※ ゆっくりした、音が重めのキス】

ちゅ ♡

【キスされた事に、困惑と嬉しさが入り混じって、少し泣きそうになって。

『マジで人間出来すぎだから』 || 『どこまでお人好しなのか』

あ……。

マジで人間出来すぎだから……♡

●※少し間をあけてから※ 話す

【※3回※ 大きく、ゆっくりと呼吸する。

自分の気持ちを落ち着けている感じで。

また、主人公の匂いをかいで、気持ちを確認している】

すううっ……♡

はあああ、すーっ……♡

■キスでまた酔いそうになって、頭がぼんやりして来るのをこらえて、理性を保とうとする。

主人公の匂いから、主人公が本当に求めてくれている事を理解して、今すぐに甘えたいのをこらえて、言葉で確認する

●※かなり長めの間をあけてから※ 話す

【心がぐちゃぐちゃ。

困ったような、少し甘えた、セクシーな声で】

じゃあ……じゃあ、ね？♡「

〈主人公〉

「うん♡」

●【1】

■今度は詩音の方からキスする

「【※1回※ ゆっくりした、音が重めのキス】

ちゅ♡

■自分の気持ちを素直に伝える事で、その後の選択を主人公に委ねる事にする。

わざと了承してもらえなさそうな事を言う事で『断られよう』としている。

これで主人公が拒否してくれれば、自分ももうすっぱり諦めて、この先どれだけの痛みに見舞われても、一人で耐える覚悟ができるので

●※少し間をあけてから※ 話す

「ぼそっと、絞り出すように。」

前後を省略しているせいで、主人公でなくても、思わず聞き返してしまいそうな感じで。

『入りたい』 Ⅱ 『サキユバスの尻尾を主人公の膣に挿入したい』

……入りたい」

〈主人公〉

「え？」

●【1】

■再び尻尾を前に持ってきて、主人公に見せる。

それから、自分の発言に補足する

「控えめでありつつも、真剣に。

実質的な告白のような感じで。

詩音としては、トラック01でぼろっと漏らした『好き』よりも、こちらの方が『真剣な自分の気持ちの告白』なので。

『中』Ⅱ『膛』

委員長の中に、指じゃなくて、この尻尾で入りたい。

●※少し間をあけてから※ 話す

……いい？」

〈主人公〉

「……♡」

●【1】

■説明を終える前から、主人公が詩音の言いたい事を察して、明らかに興奮の色を見せた

事に気づく。

『冷たく拒否されなかった』と言うだけで、本当はもう泣きそう。勇気を出して説明を続ける

「【恐る恐る、でも興奮気味に。

少し甘えた、セクシーな声で。

先に進むにつれ『ナチュラルにセクシーな雰囲気に移行』していく

主人公が明らかに興奮して、関心を示しているのが、匂いがかがなくてもわかるほど明らかなので。

『出てきてから』 Ⅱ 『自分の身体に生えてきてから』

『女の子気持ちよくさせる為の形』 Ⅱ 『女性器に挿入して快感を与えるのに適した構造と能力』

あのね……？

見て？ この尻尾。

出てきてから凄く熱くて、疼いてて……♡

しかも何（なん）かさ……♡

女の子の体液もらって生えた尻尾だから、女の子気持ち良くさせる為の形になっちゃったみたい……♡

■ここから、尻尾の構造や能力を説明していく。セリフに合わせて適宜SEが入る。

生えてきたばかりではあるが自分の身体であるためか、自然と作りを理解し、動かせて、言葉で説明ができる。

まずは、尻尾の先が口のように開く事を説明する
こうやって先っぽから、」

SE14 詩音がしっぽから分泌液を垂れ流す音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【少し大きめの音量で流す】

●【1】

■尻尾の先が見えるように、尻尾を握って主人公の目の前に持っていく。

それから、尻尾の先から分泌液を垂らして、見せる。

それは不思議ないい匂いがして、催淫作用がある

「だらく……っ。びゅくっ……♡ って、とるとるの汁出したり」

SE15 詩音がしっぽの先を動かす音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【少し大きめの音量で流す】

●【1】

■尻尾の先から、さらに舌のように温かくぬめり気のある機関を出して見せる。

また、これは本当に二本目の舌のように使える事を説明する

「舌みたいなの出して、たーっぶり舐めてあげられるし」

SE16 詩音がしっぽの先を動かす音2

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【大きめの音量で流す】

▲1 でフェードアウトする】

●【1】

■尻尾の形状を大胆に変えて、あからさまに『女性の性的欲求を満たすための形』にもで
きる事を説明する

「こんな風に形、変えられて……細くなったり、おつきくなったり。

【特にちよつと興奮気味に、セクシーに。】

『これを挿入されたら、きつと気持ちいいと思うよ』と言っているような感じで硬く、なったり……♡

■主人公が心身ともに興奮して、自分の尻尾を凝視している事がよくわかる。

今なら、自分の気持ちを素直に打ち明けても大丈夫なのではないかと思える

【ちよつと恥ずかしそうに、でも嬉しそうに】

あたしと同じで。てかあたしそのもので……♡

【特にちよつと興奮気味に、セクシーに。】

『』部分をちよつと誇張して、ダメ押しのように主人公の興奮を煽る】

『いいんちよの事が好き。好き。大好き。いいんちよの中に入りたくい』……って。ビクビクしてるの……♡」

▲1 ここでSE16がフェードアウトする

〈主人公〉

「……………♡」

● ※移動※

● [7]

■主人公の右耳に唇を寄せ、自分の気持ちを必死に伝える。

主人公の反応が、詩音に勇気を与えている。

また、サキユバスの力に酔い気味なもの、今は功を奏している。

これは、言葉としては『必死にセツクスに誘っている』という状態である。

しかし、詩音の気持ちとしては『あなたが好きです。私という人外の存在をどうか受け入れてください』と懇願している状態。

『これで断られたら全部諦めよう。失恋を受け入れよう』という覚悟で話している

「[少しかすれ気味に、少し早口で。

懇願するようにセクシーに。

比較的余裕があるように聞こえるが、本人としては一世一代の勇気を出して告白しているような状態。

『これ』 Ⅱ 『サキユバスの尻尾』

だからいい？ ♡

入らせてくれたら、絶対気持ち良くするって約束する ♡

【今度は※までゆっくりめに。

言葉で状況を想像させて興奮を煽るような感じで。

特に『ぬぼぬぼ』などの擬音をわざとゆっくりめに。

『サキユバス汁』Ⅱ『サキユバスの尻尾から出る分泌液』

これ使っているいいんちよの中入って。

感じるそこ、好きって気持ち一杯にぬぼぬぼ♥ぬぼぬぼ♥ってしてあげて。

いいんちよが嫌がってるフリしても、ガン無視でばんばんして。

【特に『びゅーっ』をゆっくりめに】

一番奥でこのサキユバス汁(じる)、びゅーっ……♥びゅーっ……♥って出してあげる。

※

■ダメ押しする。

【少しかすれ気味に。懇願するようにセクシーに。

主人公の気持ちを読むかのように。

特に聞き手をドキッとさせるイメージで】

……そういうのしてみたいんだよね？」

●※移動※

●【1】

■主人公の正面に向き直って、真剣に訴える。

トラック02の時のように強引に自分のペースに持ち込んでごまかそうとはせず、ちゃ

んと意思確認する

「【甘く、必死に自分を売り込んで。

聞き手が『こんなにも必死にお願いされたら、聞いてあげちゃうに決まってるよ』と思われる感じで」

あたし、もうわかるよ？

あたしなら、そういうのできるよ？

してあげたい。

したい。

させて欲しい。

ね？

【『私の尻尾を主人公の膣に挿入して、マーキングするかのよう分泌液を注ぎたい』という意味】

あたしので、いいんちよの中マーキングしていい？❤

〈主人公〉

「うん……❤」

● ※移動※

●【1】

■主人公の言葉が嬉しくて言葉を失う

「【息遣いのみで表現する。

驚きと喜びを抑えきれない感じで】

………！！

■主人公の方からキスされる

【※2回※ キスする。

切なげな、受け身のキス】

……ん♡ちゅ♡」

〈主人公〉

「して？♡」

●【1】

■了承してもらえた喜びと、想像以上に積極的に求めてくる主人公に戸惑う気持ちが入り混じる。

サキュバスの力を行使したのは、無意識にでもトラック02の一度きりだ。
だから、この反応は、真正正銘、主人公の本心である。

詩音はそれに激しく心揺さぶられ『正直、自分よりも主人公の方がよっぽどサキユバスのようだ』と思う

「【感嘆の『ああ』】。

強い喜びと『信じられない』という戸惑いが混じったような、『ああ』
ああ……。

「心から感謝して。

主人公が、心から自分を求めてくれている事がわかったので」
ありがとう……」

● ※移動※

● 【7】

■ 主人公の右耳に唇を寄せ、これからどのようなようにすべきか、主人公を導く。

またキスされてサキユバスの力に酔いそうになる一方で、主人公に受け入れられた事で少し精神的に安定し、今までよりも自分をコントロールできそうな気がしてくる。

詩音はトラック02言った通り、可能な限り、相手が喜んでくれる行為がしたいと思っている。

だから、自分が暴走する事が恐ろしくもあったが……今はその、酔っている時特有の不思議な余裕や大胆さを生かして『主人公が本当にしてほしいと思っっているセックス』がで

きるような気がしてくる

「【※※※までささやく※

ひそひそととても優しく、でも有無を言わせない感じで

あそこ立って？

あそこ。柵のそこ。

スカート自分で捲（めく）って。柵に掴まるようにしてお尻突き出して立って……？❤

【とても優しく。

だが『わかってているよ』『お見通しだよ』という感じで

そういうのしてみたいんだよね。

してみたい事、一番したいところでしょう？❤

【特に優しく、甘く】

ね？

早く❤

【少しだけ声音を変えて。

意地悪に、有無を言わせずに】

早、く」※

〈主人公〉

「……」

SE17 主人公が柵へ向かう足音

【最初から最後まで流す】

SE18 部活の掛け声5

【最初から最後まで流す】

【SE7と同じ音】

【SE19の邪魔にならない程度に、少し始まるタイミングをずらして流す】

【8回繰り返し返して流す】

【ものすごく遠く、地上からかすかに聞こえてくる】

【だんだん聞こえなくなる】

SE19 詩音が近づく足音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【だんだん近づいてくる】

● ※移動※

- 【9】まで離れる。

その後、【10】側から回って【13】で一度止まる

その後、5秒ほど置いて【5】

- 主人公が素直に従った事で、一度離れていく。

主人公が完全に柵に寄り掛かったタイミングで、背後から密着するイメージ

- ※呼吸しながら、背後からゆっくり近づくイメージで※ 話す

「【※9回※ 興奮気味に、荒く呼吸する。

段々ますます荒くなっていく】

はーっ、はーっ、はーっ。

はーふう、はーふう、はーふう。

はーすうう、はああすうう、はああすう ♡

● ※移動※

- 【7】（以後、【5（背面）】側の【7】）

- 主人公の右耳側に頭を置いて、背後から密着する。

あまりにも扇情的な光景に、先程の苦痛とは別の意味で気絶しそう。

興奮をどうにか抑えようとするあまり、笑ってしまうが、それが『Sっぽく』聞こえる

「とてつもなく興奮して。」

興奮が高まるあまり、思わず笑ってしまった。

『その格好』 Ⅱ 『柵に寄り掛かるようにして』

はは……♡

わく……えっち。

はあ……やばい。

その格好、エロすぎだから……♡

【※3回※ 興奮気味に、荒く呼吸する】

はあ、はあ、ふう……♡

■もはや、匂いで確認せずとも、これまでより明らかに興奮している事がわかって、嬉しくたまらない。

内心大興奮で指摘しつつも、うまく力の作用が組み合わさって、自然と『主人公好みの、声音は優しいが、容赦ない指摘をするドS』っぽくなる

【強い確信をもって、さらっと指摘する。

興奮気味ではありつつ、少し余裕がある感じで。

『ヤられてる実感ある格好』 Ⅱ 『後背位』

しかもさ、さっきより断然興奮してるね。

やっぱこういう。ヤられてる実感？ ある格好がいいんだね。

【優しい声音で、でもにやにやと】

ドMじゃん。

変態だく……♡

【とても優しく。】

【ひとときわ聞き手をドキツとさせるイメージで】

【いいよ、これからはこういうの、一杯しようね】

SE20 詩音がしっぽで主人公の身体をまさぐる音（衣擦れ）

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【次の『詩音』のセリフと、SE21と同時に流す】

【▲2 でフェードアウトする】

SE21 詩音がしっぽで主人公の身体をまさぐる音（しっぽ）

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【次の『詩音』のセリフと、SE20と同時に流す】

【▲2 でフェードアウトする】

●【5（背面）】側の【7】

■背後からサキュバスの尻尾を、二人の足の間を通す形で主人公のお腹に擦りつける。
挿入する前にこれをする事で、主人公に、今から自分が何を受け入れようとしているのかより深く理解させようとする

「【切なげに、ゆっくりりと、気持ちよさそうに息をつく】

んっ……♡

はあぁっ……♡

【※※までささやく※

かすれ気味の声で、穏やかに。

でも少し興奮気味に、意地悪に】

ほら……尻尾の先、お腹擦れてるのわかる……？♡

【『すりすり』は少しゆっくり目に】

すりすり、すりすり、すりすりって。

いいんちよの足の間から、お腹に向かって押し付けてるのわかる？

これが。今からいいんちよに入っちゃうんだよ？♡

■下腹部のところで尻尾の先を止めて『尻尾を挿入したら、突き当たりそうなところ』を教える。それから、お腹に擦りつける形で『出し入れの真似』をする。

実際は完全に推測で話しており当てずっぽうだが、お互いに挿入された経験もした経験もないので、問題なく話が進む

●※小さく頭をかしげて『この辺』を見ながら話しているイメージで※

【少しゆっくり目に。

尻尾をゆっくり出し入れしている図を想像させるように】

きつと……この辺までは入って。

入って……出て。また入って。

【少し声が意地悪さを増していく。

擬音はどれも、少しわざとらしくゆっくり目に】

何回も行き来していいんちよの事イかせまくる。

あたしが動く度に、いいんちよの中はいじめられて嬉しくなっ

ぎゅーっ……♥って、あたしのを締め付けて。

学校の屋上なのに、下で部活してるのに。何度も突かれてガクガクして。

それから、可愛くよだれ垂らしながら、びくびく……っ♥って、何度も何度もイ

んだよ。※

【優しい声音で、意地悪に。

自然に『非ささやき状態』に戻る】

嬉しいね……幸せだね。

【優しく、だが有無を言わせない感じで。

聞き手が『完全に征服された』と思うような感じで】

……入るね♥️」

▲2 ここではSE20、21がフェードアウトする

〈主人公〉

「……!♥️」

SE22 詩音がしっぽを主人公の膣内に挿入する音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【大きめの音量で流す】

●【7】

■すでに下着をつけていない主人公の性器に挿入する。

サキユバスの力で『どうすればいい』かは自然と理解できたが、『どんな感覚が待ち受けているか』は知らない。

なので、挿入した途端、形はどうあれ、ついに主人公と結ばれたという喜びと、想像をはるかに超えるような快感に同時に襲われて戸惑う

「【少し苦しそうに、でも気持ちよさそうに。

こらえるような呼吸】

……っ……っ……っ



■快感で目の前がちかちかする。気を抜くとそちらに完全に理性を持っていかれて、とても身勝手なセックスをしてしまいたいと思う。

世間一般のサキユバスのイメージが、自分の好きなように一方的に搾り取るようなセックスをするイメージがあるのはこういう事か、と理解する。

必死に自分をコントロールして、できるだけ主人公の身体に負担のなさそうな行為を考えて、実行していく

【※10回※ とても興奮気味に、荒く呼吸する。

快感に耐える呼吸】

はあ、はあ、はあ。

はーっ、はーっ、はーっ。

はあ、はあ、はあ。

【※1回※ とてもゆっくり呼吸して、快感に耐えて会話しようとする】

ふーっ……っ……っ



【低めに、小さく喘ぐ。

会話しようとして失敗する】

っああ……♡

【※1回※ とてもゆっくり呼吸して、快感に耐えて会話しようとする】

ふーっ……♡

【うっとり、ゆっくりめに。

ものすごく気持ちよさそうに】

ああ……凄い……♡ すっごいあったかい……♡

こんな風になるんだね。

■快感から意識をそらすためにも『主人公の興奮を煽る為の状況説明』を始める。

尻尾の感覚は敏感すぎるほど細やかで、今自分が主人公の膺の中で、どのような形状に変化しながら行為を行っているのか、手に取るようにわかる。

主人公を痛がらせないように、尻尾を細くした状態で挿入した事から話していく

【余裕なさげな声で、優しく話す。

わざと『実況』をしてあげる。

『あたしを呼んでる』 Ⅱ 『誘惑するように収縮する』

……ほら、わかる？」

SE23 詩音がしつぽを主人公の膣内で動かす音

【最初から最後まで流す】

【2回繰り返し返して流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【大きめの音量で流す】

●【7】

「いいんちよの中に、細くて優しいのが、ゆっくり、ゆっくり入ってって。

傷つけないように、そーっと、そーっと、あたしを呼んでる奥んどこまで行って…………っ。

【思わず喘ぐ。『ふわっと膨らんだ』と言おうとして『うあっ』になっってしまう】

うあっ…………♡

って、膨らんだ…………♡

【うっとり、ものすごく気持ちよさそうに。

あまりの気持ちよさで、また独り言っばくなる。

『密着感』Ⅱ『膣の中で尻尾を締め付けてくる感じ』

…………はあ、すっご…………。密着感やっば…………♡

中、めっちゃ気持ちいい…………。

【ダウナーながらに『信じられないほど気持ちいい』という感じで】

こんな良（い）いんだ……？♥

■理由はわからないが、少し余裕が生まれる。

それは尻尾が主人公の腔内の粘膜や分泌液を舐めとったからなのだが、詩音はその因果関係を理解していない

【うっとり、ものすごく気持ちよさそうに。

主人公とセックスしている実感が湧いて、幸福感がこみ上げてくる。

また、不思議と少し余裕が生まれたので】

はあ……めっちゃ幸せ。初めてがいいんちよでほんとに嬉しい……♥

頑張るね♥】

SE24 詩音がしっぽを主人公の腔内で動かす音2

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【大きめの音量で流す】

SE25 詩音がしっぽを主人公の腔内で動かす音3

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

〔SE 24 が終わってから、次の『詩音』のセリフと同時に流す〕

〔大きめの音量で流す〕

〔▲ 3 でSE 26 に切り替わる〕

● 【7】

■ 主人公を本格的に気持ちよくするために、無意識のうちに尻尾の形状を変え始める。

『身体がまず無意識的に動いて、動いてから、自分が何をしているのか、頭でも理解する』という感じ。セリフに合わせて適宜SEが入る

【※6回※ 興奮気味に、荒く呼吸する。】

快感に耐える呼吸】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ………❤️「

▲ 3 ここでSE 25 が26 に切り替わる

〈主人公〉

「……ああっ………!?!❤️

……詩音、ちゃ………?❤️「

SE26 詩音がしつぽを主人公の膣内で動かす音4

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【SE24が終わってから、次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【大きめの音量で流す】

【▲4 でSE28と切り替わる】

●【7】

■主人公の膣内で尻尾の形状を変えながら、少しずつ刺激し、出し入れして、快感を与えていく。セリフに合わせて適宜SEが入る

「うっ」とりと吐息交じりに、ものすごく気持ちよさそうに。

余裕なさげな声で、優しく話す。

再び『実況』をしてあげる】

はああ……：そうだよ？ やっぱわかる？ ♡

今、中で、いいんちよが一番気持ちいい形に変えてるよ…… ♡

委員長がっ……：一番好きなところに届いて、当たって。

頑張らなくても余裕でぐりぐりできる。

いいんちよが一杯感じる為だけに弄（いじく）られた形に、っ、なってってるよ……♡

【うっとり、ものすごく気持ちよさそうに。
『とにかく幸せでたまらない』という感じで】

あく……♡ 幸せ……♡

あたしいんちよとセックスしてる……♡

嬉しい……♡

【※3回※ うっとり、気持ちよさそうに呼吸する。

快感に耐える呼吸】

はあ……♡ はあ……♡ はあ……♡

【優しい声でうっとり、ものすごく気持ちよさそうに。

『主人公が好きで好きでたまらない』という感じで】

好きだよ……♡ 好き……♡ 好き……♡

好きっ……♡

【※8回※ うっとり、気持ちよさそうに呼吸する。

快感に耐える呼吸】

はあ……♡ はあ……♡ はあ……♡ はあ……♡

はあ……♡ はあ……♡ はあ……♡ はあ……♡ はあ……♡ はあ……♡

SE27 部活の掛け声6

【最初から最後まで流す】

【SE2と同じ音】

【7回繰り返し返して流す】

【次の『詩音』のセリフの邪魔にならない程度に、少し始まるタイミングを『早く』ずらして流す】

【ものすごく遠く、地上からかすかに聞こえてくる】

【だんだん聞こえなくなる】

〈主人公〉

「……………」

●【7】

■主人公が、屋上の真下にあるグラウンドで部活中の生徒たちを気にしている様子なのに気づく。

セックスしている幸福感とサキユバスの力のおかげで余裕ありげだが、実際は主人公の関心が奪われているようでもちよっと気に食わない。

だが、主人公が『人に見られているかもしれない』というスリルで興奮する女性である

事はもうわかっているの、さらにこれを『主人公を煽る材料』にしてやろうと考える程の余裕はある

「優しく。ふと気づいたように」

ん……？

【優しい声で、ちよつと意地悪に】

ああ……下気になる？♥

『見られちゃったらどうしよう』って思う……？♥

【うっとり吐息交じりに、ものすごく気持ちよさそうに】

はああ、でも、大丈夫。ちゃんと隠してあげてるからね。
「こうやってっ」

▲4 ここでSE26が28と切り替わる

SE28 詩音がしっぽを主人公の腔内で動かす音5

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【大きめの音量で流す】

【▲5 でSE29と切り替わる】

●【7】

●※以後、『★』の絶頂ポイントまで、言いながら、頭が小さく揺れた状態で話しているイメージで※ 話す

■主人公の興奮を煽るべく『主人公の今の状態』を言葉で懇切丁寧に描写してやる。わざと乱暴な言葉を多用して、主人公の被虐心を煽る

【優しい声で、意地悪に。

主人公が下を気にしているのが、ちょっと気に食わない】

さっきまでいくつぱい舐められていきまくったまんこに淫魔の尻尾ハメられて。

後ろからっ、がっちり掴まれて腰振られて……おっぱい揺らしながらあんあん喘いでても。

部活やってる人達からは『何（なん）か柵のところで話してる？』みたいにしが見えないから。

■自分の発言を補足する。なお、のちの伏線

まあ、まだ完全に使いこなしてる訳じゃないから、寄られたらヤバいけどね。挿れちゃってたら、キスしてる位に誤魔化すしかできないかも。どのみち、この距離なら安心だよ。

【余裕ありげにしつつも、どこか悔しそう、切なそうに】

ほら……練習なんて見てないですよ。

【優しく、でも有無を言わせない口調で】

私に集中して？♥

■自分の言葉と尻尾の動きを連動させながら、言葉でも、尻尾でも主人公をねっちりと攻める。とても下など気にしていられない状況にしてやりたい

【低めの声で優しく。】

うっとり吐息交じりに、ゆっくりめに、少し意地悪に。

『ぱんぱん』 Ⅱ 『腔への出し入れを表現した擬音』

ほら、ぱんぱん……♥ ぱんぱん♥

ぱんぱん♥ ぱんぱん♪

【※までささやく。】

低めの声で優しく、でもちよつとSっぽく】

いいんちよのしてみたかったえっただよ？※

ぱんぱん♥ ぱんぱん♥

ぱんぱん♥ ぱんぱん♪

【低めの声でうっとり、物凄く気持ちよさそうに。】

少し余裕なさげに】

“あ〜……きゅっ……♥

狭いの可愛い……♡ 中凄い喜んでる……可愛い……♡

【今度は余裕ありげに。

主人公をたっぷり言葉責めしたいので、頑張る】

そっかそっか……♡

【※までささやく。

低めの声で優しく、でもちよつとSっぽく】

こんな風に犯されちゃうのが好きなんだ。

好きっていうか……ずっとこういうのを想像してオナネタにしてたんだね？♡

何？ えっちな漫画とかで見たの？

可愛いね♡※

【※3回※ かなり荒く、早く呼吸する。

快感に耐える呼吸】

はあ、はあ、はあ。

【少しだけ早口で。

逆にそれが余裕ありげに、意地悪っぽく聞こえる感じで】

ね、ほんとにされてみてどう？ 好きになれそう？

■意味もなく匂いをかぐ。

もう、わざわざ嗅がなくてもわかっているが、主人公の興奮を煽るためにやる

【※鼻呼吸で※ 表現する。

早く、余裕ありげに匂いをかぐ】

すんすん、すんすん、すんすん。

【にやにやと嬉しそうにからかう。

ダウンナーながらも勝ち誇った様子で、喜びが抑えきれない感じで

あく……大好きになっちゃったんだ♡」

〈主人公〉

「……詩音ちゃっ……♡ ……あっ♡ あっ♡ あっ♡」

●【7】

「くすくすと嬉しそうに。

ダウンナーながらも勝ち誇った様子で、喜びが抑えきれない感じで】

あははごめん♡ 勝手に読んだ♡

■ちよつと素が漏れる。『頑張るね』という、おおよそSっぽくない発言をする

【うっとり吐息交じりに、ものすごく気持ちよさそうに】

そっかあ……こういうのが……こういうのが……好きなんだ……♡

頑張るね……♡」

▲5 ここでS E 2 8が2 9と切り替わる

S E 2 9 詩音がしっぽを主人公の膣内で動かす音6

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【大きめの音量で流す】

【▲6 でS E 3 0と切り替わる】

●【7】

【※8回※ 荒く、早い呼吸。

快感に耐える呼吸】

はー、はー、はー、はー。

はー、はー、はー、はー ♡

【ふと気づいて。

くすくすと嬉しそうにからかう。

『ぱんぱん打ち付けられる』 Ⅱ 『処女では痛がりそうな激しいセックス』】

てか、さっきまで処女だったのに、もうぱんぱん打ち付けられるのが好きなんだ？ ♡

才能ありすぎでしょ……♡

【絶頂が近づき始める。

※8回※ 荒く、早い呼吸。

先程よりもさらに苦しそうな、快感に耐える呼吸】

はあっ、はあっ、はあっ、はあっ、はあっ。

はあ、はあ、はあ、はあ、はあっ……♡

【低めに、小さく、とても気持ちよさそうに喘ぐ。

余裕ふってはいるが、詩音もものすごく気持ちいいので】

くあ……♡ あっ……♡

【※8回※ とても荒く、とても早い呼吸。

先程よりもさらにもう一段階苦しそうな、快感に耐える呼吸】

はーっ、はーっ、はーっ、はーっ ♡

はーっ、はーっ、はーっ、はーっ ♡

【低めに、小さく、とても気持ちよさそうに喘ぐ】

あ〜……っ ♡

【うっとり吐息交じりに、ものすごく気持ちよさそうに】

いい……♡

私もめっちゃ気持ちいい……♡

■気持ちよすぎて、だんだん自分を抑えられなくなっていく。

主人公の好みは余裕のあるSっぽい人物だとわかっているが、素直な自分の気持ちが漏れてしまう

【少し早口めに、気持ちよさそうに、ものすごく幸せそうに。

『主人公とセックスできて嬉しい』という気持ちがもう抑えられず『Sっぽいキャラクター』を維持しきれない】

大好きだよ。いいんちよの中幸せすぎる、大好きだよ、ほんと好き♡

これから一杯しようね。あたしもっと上手になるから。

一杯しよ、沢山しよ。明日もしよ。毎日しよ♡

そしたら、もっと気持ち良くなれるよ？♡」

▲6 ここでSE29が30と切り替わる

SE30 詩音がしっぽを主人公の膣内で動かす音7

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【大きめの音量で流す】

【▲7 でフェードアウトする】

●【7】

「さらに絶頂が近づく。

低めに、小さく、とても気持ちよさそうに喘ぐ」

「あゝあっ………♡

好き。大好きっ………♡

【低めに、小さく、とても気持ちよさそうに喘ぐ】

「うっ………♡

あ………♡

【※8回※ とても荒く、とても早い呼吸。

先程よりもさらにもう一段階苦しそうな、快感に耐える呼吸】

はっっ、はっっ。はっっ、はっっ ♡

はっっ、はっっ。はっっ、はっっ ♡

【ものすごく気持ちよさそうに、低めに吐息交じりに喘ぐ。

もう全く余裕がない。絶頂思想】

はああっ………あ ♡

あ ♡

「あ ♡

ごめ……もうだめっ……かもっ♥

■絶頂して、主人公を背後から抱きしめた状態で、尻尾の先から主人公の膣内に分泌液を大量に流し込む。

この液体は人体に影響なく、ただ注いだ相手の性感を高めるもの。

また『注いだ相手と注がれた相手の、性的快感のシンクロ度合いを高めるもの』なのだが、詩音はそれを知らない

【※ここで詩音が絶頂する※

何度もびくっ、びくっと痙攣して、その度に分泌液が大量に射出されていくイメージで。一行ごとに少し間があく感じで。

特にわかりやすく気持ちよさそうな演技にする事で、絶頂ポイントをわかりやすく伝えて下さい】

“あ！”あ！

“あっ！”

“ああああっ……♥

“あゝっ……♥！”

▲6 ここでSE30がフェードアウトする

SE31 詩音がしっぽから、分泌液を主人公の膣内に流し込む音

【最初から最後まで流す】

【大きめの音量で流す】

【少しこもった印象の、身体の内側から聞こえてくるような音にする】

●【7】

「【※8回※】 もっとも荒く、最も苦しそうだが、満足げな呼吸。
次第に楽そうに、ゆっくりになっていく」

はーひゅうっ ♡ はーひゅうっ ♡

はーひゅうっ ♡ はーひゅうっ ♡

はーひゅうっ ♡ はーひゅうっ ♡

はーひゅうっ ♡ はーひゅうっ ♡

●※移動※

●【1】

●【7】から【1】へ、頭を回して背後から近づくイメージで※

【※3回※ 軽くキスする】

ちゅ ♡ ちゅ ♡ ちゅっ ♡

● ※移動※

● [7]

「【※6回※ 荒く、苦しそうだが、満足げな呼吸。

先程よりは明らかに楽そうで、さらに次第に楽そうに、ゆっくりになっていく」

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ…………。

【うっとり幸せそうに、満足げに。

少し独り言っぽく】

あく…………良かったあ…………♥

すっごい気持ちよかった…………♥

■尻尾を膣内に挿入したまま、分泌液を注ぎ込み続ける。

その行為は詩音にとってとにかく甘美で、心身ともに満たされるもの

【うっとり幸せそうに、満足げに。

『とにかく今幸せでたまらない』という感じで】

ねえ。今、中でいっぱい出てるのわかる…………？

ふふ…………ほんとにいいんちよの中にマーキングしちゃった…………。

【うっとり幸せそうに、満足げに。

少し独り言っぼく」

ああ……嬉しい……。ほんとにいいんちよと最後までしちやった……」

〈主人公〉

「わ……たしも……♡」

●【7】

「【ふと気づいたように】

……ん？

【ものすごく優しく。自然とセクシーに。

聞き手が『こんなに優しく尋ねられたら、絶対に好きになってしまう』とってしてしまうような感じで】

委員長も気持ちいい……？♡

あたしに中で出されて、全部忘れちゃう位気持ちよかったの……？

【照れ笑いして、素直に嬉しそうに。

今度は素の詩音が出る事で、聞き手にギャップを感じさせ『それが可愛い』と思わせるような感じで】

へへ、嬉しい……♡

あたし、これからもっと上手くなるから。

一杯一杯、しようね……♡

【※1回※ 耳にキスする。ゆっくりした、音が重めのキス】

ちゅ♡「

ここでフェードアウトして終了。